

令和5年度福岡市博物館協議会 議事録

日 時	令和6年3月27日（水）15時00分から17時00分まで
場 所	福岡市博物館 講座室1
出席者	福岡市博物館協議会委員 12名 福岡市博物館 18名
議 題	(1) 会長、副会長の選任について (2) 福岡市博物館の事業について ①令和5年度事業報告 ②令和6年度事業計画 ③博物館リニューアル推進事業

1 開会

運営課長 委員の過半数以上出席であり、本協議会は成立している旨を宣言。

館長 開会あいさつ

2 議題

(1) 会長、副会長の選任について

会長に山下委員、副会長に岩永委員を互選により選任。

(2) 福岡市博物館の事業について

①令和5年度の事業報告

会議資料1に沿って事業報告を実施。

②令和6年度の事業計画

会議資料1に基づき事業計画を説明。

③博物館リニューアル推進事業

会議資料2に沿って説明。

3 質疑応答

以下のとおり

◎事業報告・計画に関する質疑応答

- 委員 企画展示室の展示について、小さい展示だが大きな労力をかけていると拝察する。展示のノウハウも蓄積していると思うので、それを活かしつつ、地域とのコラボレーションとして市民も参加する企画展示に踏み出してほしい。すでに春日市では、地元の中学生に考えてもらう考古学の展示を実現している。このように中学生に博物館まで足を運んでもらい、キュレーション的な体験活動を提供することは、シビックプライドの醸成にもつながり、将来的な（博物館の）ファンになってもらう効果があると考え。ぜひ、周辺の博物館に模範を示す意味でも、福岡市博物館にパイオニア的活動を行ってほしい。
- 事務局 博物館では、博物館リニューアル推進事業を進めている。そこに館内の改修も計画されており、企画展示室も改修に含まれている。単に部屋の改修を行うだけでなく、これ（リニューアル）を機会に、ご指摘いただいたように市民参加型の展示や他の部署との共同企画も行えるように検討を進めている。
- 委員 市史編さん室が博物館内にあることは、この博物館の大きな特色であり、市民に（編さん室の活動が）深く入り込んでいる。市史では小学校や校区単位で調査報告などを行い、広報誌を出しているため、市民参加型の展示が難しければ、校区ごとの発掘調査を報告する企画展などを行ってはどうか？
- 事務局 市史編さん室では、(刊行物)『市史だより』では毎号、校区程度の範囲についてとり挙げ、調査を行っている。校区ごとの企画展示は今後実現しやすいものであるため、企画展のラインナップとして検討したい。併せて、市史の調査結果を市民にどう還元するかということについても検討したい。
- 委員 外部からだど、どんな特別展をやっているかということにとっても目がいく。令和5年度はジブリの来館者数がとても多かったが、それは博物館の主催ではない。どのような観点からこれらの特別展を選んでいるのか、令和5年度と令和6年度分それぞれについて聞きたい。また、藤城清治の切り絵展は来館者数が多いのではないかと思うが、博物館としてはどの特別展に力を入れるのかを教えてください。加えて、(特別展として持ってくるものは)市民が興味を持っているものが大事かと思う。例えば、話題になっている大河ドラマ等をテーマにすれば市民(来館者)が集まると思うが、博物館としてはどういう姿勢(視点)で向き合っていくのかを教えてください。
- 事務局 特別展示室の部屋は、第三者に貸出して展覧会を実施する部屋である。そのラインナップについては、早いものでは3年以上前から話をもらう。その展示の

内容と、実際のスケジュールを考慮しながら計画を決めている。その中でも、年に一度は自主企画という形で福岡の歴史や文化に関する企画展を実施し、(当館が)協賛に入る他の特別展より、自主企画展には力を入れている。福岡と深い関わりがない展示を行うこともあるが、市民に幅広い文化芸術を提供するという視点から、福岡に関する企画とのバランスを考えて計画を組んでいる。また、来年度実施予定の特別展「民藝 MINGEI」では、企画展示室において当館所蔵の民芸に関連する資料を公開する展示を計画しており、特別展と企画展との連携を図っている。また、大河ドラマについては毎年取り上げられるテーマが変わるが、これまで(福岡市に)関連する資料を紹介する企画展を行うなどの実績はある。ご指摘のとおり、いかに市民に興味をもってもらい、足を運んでもらうかということについて今後も検討したい。

委員 教育普及について、体験学習と出前学習の実績の数字に差があるところが気になった。何か理由はあるのか。また、インバウンドについて、福岡は古くから対外交流を行うなど、独自の文化や歴史があるのでアピールすべきだが、どのような取り組みがあるか知りたい。

事務局 体験学習と出前学習の差については、学校側の事情が大きく影響していると考えている。体験学習では、児童・生徒の安全性などを考慮する必要があり、その負担を考えて出前学習の実績が多いのではと思われる。ただ、来年度(令和6年度)は、対話型鑑賞を福岡市美術館と福岡アジア美術館の3館で連携して行う計画があり、来館の際のバス代を市で負担するため、来館しての学習機会が増えると思われる。インバウンドについては、コロナで減った分が最近回復してきている状況である。音声ガイドの実証実験から、インターネットで海外からのアクセスが多いことが分かったため、外国語によるSNSの発信に取り組んでいる。また、少しずつではあるが、外国語に対応したホームページの公開も行っている。

委員 企画に対して、来館者数の目標設定はあるのか、気になった。例えば、秋に計画されている特別展「大灯籠絵」について、実際に行事が行われる夏に実施した方が、より多くの来館者数が見込め、目標設定(数値)が立てやすいのではないかと思う。

また、インバウンドについては、特に力を入れて対応すべきである。街の魅力を語る際は、美術館・博物館は欠くことができない財産である。そのため、既に(博物館に)あるものに対して相手が興味を持つことを待つのではなく、積極的にこちら(博物館)から情報を発信したり、どの時期に観光客が来るのかをマーケティングしたり、リサーチしたりということには力を入れるべき。

インバウンドが興味を持ちそうなものを、毎月何か行っていくというような姿勢をとっても良いと思う。特に気になったのは、世界水泳。会場から博物館

は近かったにも関わらず、特別な企画もなく（世界水泳に関して）積極的でなかった印象を抱いた。

インバウンドだけでなく、福岡市に住んでいる外国の方も多くいる。博物館には言葉（言語）に頼らなくてもいい「もの」があるので、人や予算をかけて力をいれていくべきではないか。

事務局 ご指摘のとおり、市内で行われている行事に合わせた企画展に取り組む視点が十分ではないと感じている。毎年、山笠や戦争・平和を考える時期には、それに合わせた企画展を実施しているが、今後はより行事等を意識した企画展を検討したい。

委員 全国放送（のテレビ）で福岡市博物館の学芸員が登場していた。全国放送だと数十万人レベルで多くの人が見ている。博物館の名を広めるチャンスになると思うので、連動した企画を行っても良かったのではと思う。このような旬なものに乗っかる姿勢を、積極的に持って欲しい。博物館の広報活動になる。

事務局 ご指摘いただいたような連動企画は、思いついていなかった。タイムリーなものに乗っかる姿勢が足りないところがあるので、今後取り組みたい。なお、世界水泳について、水に関連する企画展や（インバウンド対応として）日本の文化として分かりやすい刀剣や甲冑などの展示をして（PRをして）いたが、アピールが不足していたところもあったので、今後の課題としたい。

委員 ロビーでの展示企画はできないのか。市民参加について、展示室では制約があるのであれば、制約がクリアできるロビー等で行えばよいと思う。配布資料内では、ロビーでファッションショーなどを行っているので、市民が企画した何かを行うなど、もっとさまざまな企画を行ってほしい。

また、常設展示室は、福岡市のことが勉強できるが、展示室が長い（広い）ので見ているうちに間延びしてくる感じを受ける。資料の数が多いのはいいが、注目してほしい資料に関しては、金印のように目を引く常設展の見せ方（展示の方法）を検討しても良いのではないか。

事務局 常設展は平成 25 年度にリニューアルしている。その際、（以前は）好きなように巡れる自由導線だったものを、古い時代から現代へと時代の順番に沿って見る導線に変えた。ご指摘のとおり、来館者の中には常設展を見るのに時間がかかったなどの声が上がっている。博物館として見てもらいたい資料に対しては、メリハリをつけた展示も検討できると思う。今後のリニューアルで常設展の設えや内容も検討するため、ご意見を取り入れていきたい。

委員 資料の収集保管について、寄贈の数字が多いように感じているが、前年度などの数字が分かればもっと分かりやすい。また、寄贈者に対してどのようなケアをしているのか教えてほしい。同時に、他にも寄贈の声が多いと思うが、どのような方針で受け入れや周知をしているのか教えてほしい。

事務局 令和4年度は、寄贈が2,834件、寄託が2件、購入が39件だった。令和3年度は、寄贈が2,646件、寄託が42件、購入が111件だった。年度によってばらつきはあるが、年間平均3,000件ほどの寄贈を受けている。寄贈者は多い年だと40名を超えることもある。年度の寄贈者に対しては、新収蔵品展で感謝状贈呈式を行い、顕彰している。その後、寄贈資料を常設及び企画展示室等で展示する際にも、その都度寄贈者に案内状を送っている。また、毎年、年の初めに挨拶状を送り、それを常設・企画展示室の年間パスポートの代わりに（利用）してもらっている。定期的に寄贈者にアクセスをすることで（博物館と寄贈者の関係を）継承し、寄贈者に博物館に足を運んでいただけるように取り組んでいる。

収集の方針としては、福岡市の博物館であるため、九州北部の歴史や文化に関わる資料を対象としている。収集に際しては、なるべく「資料群」として一括で収集するようにしている。

委員 ヨーロッパの博物館を見た際、自治体の施策が展示のさまざまところにちりばめられており、観覧後に来館者にどうするか自分自身がどうあるべきかを考えさせる仕組みがあることを実感した。福岡市博物館でも、例えばセーラームーンとジェンダーやジブリと自然共創など、展示を見た後、福岡でどう自分が生きていくかを自分事として考えてもらえるような仕組みやメッセージ性があるといいのではないかと思う。

◎リニューアルに関する質疑応答

委員 インバウンドを考えたクロックやコインロッカーのキャッシュレス化、チケットのキャッシュレス化などのリニューアルについてはどうなるのか。

事務局 現在、リニューアルの基礎的設計を進めている段階で、常設展・企画展のチケットのキャッシュレス化は検討している。コインロッカーなどの備品については、現在検討を始めているところなので、今後の参考としたい。

委員 博物館の情報を外に向かってもっと発信するとともに博物館の中で働く人が、積極的に外に出るべきである。外と連携すべきだと思う。サザエさん通りなどに何もなく、観光客は博物館にいかずに他所へ行くケースが多い。内部（博物館内）でやっていることを周知するためにも、外への情報発信と博物館が積極的に外へ出て行く取組みが必要。百道浜地域の小学校には、外国籍の子どもが約10%おり、出前学習等を受けているが、その子どもたちが大人になってこの場に戻ってくるかという疑問がある。子どもたちが将来地元に戻ってくる仕組みを考えてほしい。

博物館の外の人を博物館の中に入れると、博物館はもっと良い方向に変わっ

ていくのではないか。

また、飲食店をつくってもそれだけでは繋がらないし、続かないと思うので、商店街と連携するなど、博物館の外に目を向け、外の人がやってくる仕組みを考えてほしい。

委員 世界的に博物館のパラダイムが激変している。特に中国では、地域の独自性をナラティブな物語として発信し、展示の見やすさなどに留意していて素晴らしいと衝撃を受けるが、福岡市博物館では、展示ソフトに対して世界的なパラダイムシフトにどう対応するのか、また、どのようなリサーチが行われているのかを伺いたい。

委員 ヨーロッパの博物館では、社会包摂の場として博物館が移民難民など多様性に留意した対応が行われている。その辺りについてはどうアプローチしているか伺いたい。

事務局 今、まさに課題を認識しているところである。民間事業者などと連携して検討しているが、どのような立場の人でも福岡がどういう歴史を辿ってきたかがわかる展示を検討している。現在、リサーチを始めてきたところなので、今後は国内だけでなくさまざまな地域や分野の博物館を参考に、表現の仕方も含め検討したいと考える。また、社会包摂について、博物館を支える職能の再検討も必要となるため、このリニューアルを機会に運営体制を整えながら、福岡市にあるべき博物館としての価値を発することができるよう検討していきたい。

委員 リニューアルについて、今後も(博物館協議会)報告を受ける機会があるだけなのか、意見を言える機会があるのか、伺いたい。

事務局 令和3、4年度にリニューアル検討委員会で検討をしてきた。また、未就学児を持つ市民を公募で募集し意見を収集するなどして、リニューアルの基本計画ができています。現在、ハード面を先に詰めている状況なので、運営や事業活動などソフト面に関して、今後はワークショップなどで意見を窺う場を設けたい。

委員 福岡市美術館、福岡アジア美術館、九州国立博物館に足を運ぶ人は多い。切り絵(藤城清治)の展示は(自分の周囲では)関心を集めているが、もう少し足を運びたいような展示企画があればと思う。また、展示だけでなく、何かもうひとつ別のプラスの魅力があり、博物館と周辺を1日ばかりで楽しめるような場であると良いと思う。

委員 博物館の近くに住んでいても、魅力がないと館に足を運ばない。(自分は)刀剣に関心があるが、(刀剣の展示は)いつも同じでマンネリ化しているので、最近では特別展にしか目が向かない。また、(子を持つ親の視点として)より子どもの関心を引くために、魅力のある人の声で音声ガイドを作成するなど目玉をつくってはどうか。今の子どもが興味を持つものごとは大事だと思うし、この先長

く関心が集められるものだと思う。

委員 (イタリア会館の自分の) 生徒に「福岡の観光でどこがおすすめか」と尋ねると「福岡タワー」や「太宰府」という答えが返ってくる。(インバウンド、特にヨーロッパの人たちは) わざわざ福岡まで来るからには、素晴らしいものを見たい。この場所(福岡市)は福岡のムーブメントが始まったゾーンで魅力がいっぱいあると思うのに、それを知らない人が多い。(素敵なところを) 自分で探さないといけない。福岡市は(探すことを) 助けてくれない。これは、展示に英語解説が少ないからだけではではない。配布資料のガイドブック(海外版)も、内容面でアピールが足りない。

長く福岡に滞在する外国人に相談してコラボをする必要があるのではないか。

アジアからの観光客とヨーロッパからの観光客では、観光で見たいもの場所が全く違う。(自分が) イタリア人の観光団体を福岡でガイドする時は、川端商店街や櫛田神社を案内する。もっとこのような視点をもって考えてほしい。

委員 ご近所からも世界からも一番来たいと思える場所に福岡市博物館がなりますよう、これをリニューアル後の目標に掲げ、皆様頑張ってくださいと思います。